



国民の2割以上が悩まされている

…水虫とは…



水虫菌が活動を始めると、皮膚の奥の生きた細胞が刺激され、**かゆみや水ぶくれなどの症状**が現れます。症状は様々で、中には、かゆみが出ず、**皮膚が硬くなり、ひび割れ**が起こるケースもあります

水虫の種類とその症状

● **足の指の間のできるもの[趾間(しかん)型]**: 足の指の間の皮が、湿って白くふやけたようになり、乾くと皮がむけます。

かゆみは比較的少ないタイプです。また、ときには、赤くなってただれたりします。

● **足の裏のできるもの[小水疱(しょうすいほう)型]**: 土踏まずや足の外側のへりに、小さな赤い水ぶくれができ、激しいかゆみをとまいません。

水ぶくれは、破れると液が出ますが、やがて白くカサカサに乾き、皮膚がボロボロとむけてきます。

● **足の裏全体がかたくなったもの[角化(かくか)型]**: かかとなど角質層が厚いところに、水虫菌が奥深く入り込んで皮膚がかたくなり、やがて足の裏全体に広がっていくタイプです。かゆみはありませんが、冬、乾燥すると、ひび割れが起こり、痛みが出ます。

● **爪に白癬菌が入ったもの[爪白癬(つめはくせん)]**:

爪も皮膚の一部なので水虫になります。

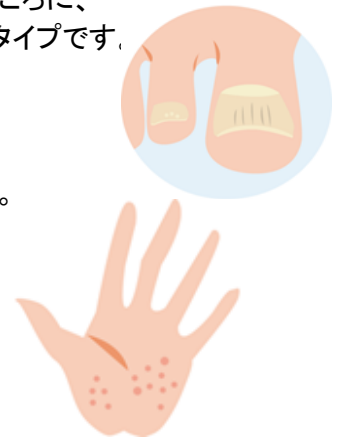
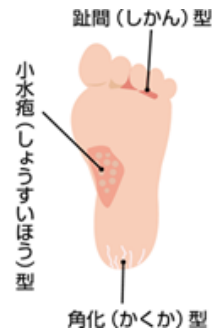
一般的には直接爪の水虫になることはなく、足の水虫が爪に感染して起こります。

かゆみはなく、爪が白くにごり、厚くなります。放っておくと爪がもろくなり、ボロボロになります。また、症状が全ての爪に及ぶこともあります。

● **手にできるもの[手白癬(てはくせん)]**: 手は直接外気に触れているうえ、洗う機会も多いので、足よりはずっと稀(まれ)ですが、水虫にかかります。

症状は足の場合と同じで、小水疱ができることもあれば、

手のひらが角化することもあり、爪まで感染することもあります。



対処法

①症状が出たら、早めに薬を塗る

薬は症状が出ている部分より広めに塗りましょう。放っておくと、患部が広がり、治りにくい爪やかかとまで、水虫になってしまいます。

②根気よく続ける

かゆみがなくなったからといって、治療をやめてはいけません。

薬を塗り始めてから、症状が消えるまでに1~2カ月。

症状が消えてから、菌を死滅させるまでにさらに1~2カ月。

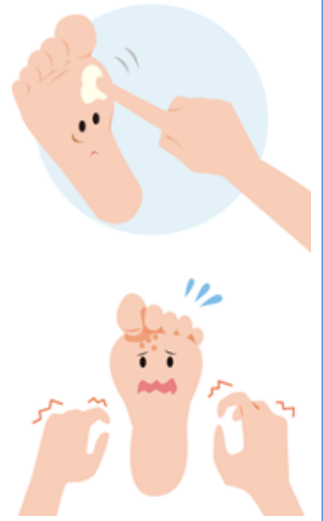
ここまで塗り続けないと、完治させることはできません。途中で止めると、再発することが多いので根気よく続けましょう。

③かゆくても、かかない

患部をかきむしって傷つけると、他の細菌などによる感染が起こり、

患部が悪化したり、別の皮膚の病気に発展する恐れがあります。

また、かいた爪には水虫菌が付着するため、体の他の場所にうつる危険もあります



菌が皮膚の表面に付着してから、**内部に侵入するまで12時間以上**かかります。

侵入前に菌を洗い落としてしまえば、感染は起きません。

「毎日、せっけんで丁寧に足を洗う習慣をつけることが一番の予防になります。指と指の間を洗うのも忘れないようにしましょう」

皮膚を傷つけると感染のリスクが高まります。ゴシゴシ洗うのは避けましょう。

